

農業研修講座で播種を学ぶ

J A相模原市と相模原市が連携して行う、援農システムの農業研修講座が4月11日に開かれた。

この日は、相模原市緑区の圃場（ほじょう）で、トウモロコシの品種「ゴールドラッシュ」とエダマメの品種「味風花」の播種、サトイモの種芋掘りあげ全作業を2時間ほど行った。2・3年目のサポートコース受講生23人が参加。今後は、栽培管理から収穫までの一連の作業を行う予定だ。

「トウモロコシは、種をまく土の深さが大事。深すぎると発芽が遅くなる」などの注意点を同J A営農経済部の職員が説明した。

3年目受講生の増淵利郎さん（49）は「農業研修講座は、専門的な知識を学べる貴重な場。講座修了後は、援農ボランティアとして活躍し農家のサポートをしていきたい」と話した。

同J A営農経済部営農支援課の吉川寛徳主任は「講座で多くのことを学び、農家で活躍する欠かせない援農ボランティアに育ててほしい」と期待を込めて話した。



土の深さを受講生に指導する同J A営農経済部職員（左）